



京大主催「文樂研究會」

京都帝國大學同學會文化部長主催にかゝる文樂研究會は五月二十六日午後五時半より學生集會所に於て開かれた。演目は「菅原傳授手習鑑」杖折疊より東天紅の段（織大夫、團六）相取名残の段（古軀大夫、清六）「本朝廿四孝」狐火の段（織大夫、清六、團六。人形、八重垣姫、榮三）にて満堂の學生諸君に多大の感銘を與へた。

古軀の道明寺

天皇陛下（昭和三年六月）大御方御安否
行幸天聽の時側近侍々々山賊師の結々々々解説されし方也
高安吸江

今年古軀氏が櫓下の位置を得られたためでも無からうが
再々その妙技に接することが出来て大いに嬉しく思つてゐま
す。

先づ正月二日の熊谷陣屋、此れは是まで聴いた同氏の傑作
中の傑作であつたのみならず、歌舞伎や淨るりを通じ、私の
見聞したものゝ中での第一等であつたと信じます。

それから三月廿五日人形淨るり協會主催の招待で合邦が出
ました。此れがまた逸品で、同月三日のそれとは比較になら
ぬ程、ズバ抜けてよかつた、例へばあの「茶漬でも手向け

やりや」のくだりなど、随分此れまでいろいろの人のを聞き
ましたが、此一句でホロリとなつたのは此時が始めでした。
かうした點だけでも其一般が推察されるでしやう。

そこで去五月廿六日京大での道明寺です。うちあけて云ふ
と此成績は右の二回に比べて、それと同等乃至それ以上であ
つたとは云ひ得なかつたが、少くともそれに次ぐ傑れた力演
であつたのに相違はありません。

私が此夕特に敬服したのは覺壽です。古來からやかましい
三老婆の一人であり、その中でもわけて複雑なその性情が終

始一貫してたつぷりとよく描かれてゐる此覺壽を、古親氏一流の手堅い巧緻さで、聽衆に得心が行くやう、微に入り細に入つて語り生かされました。

その中でも殊に印象の深かつた一二を挙げると、偽せ迎が返へしに來た丞相に對する不審の中の喜びから、いよ／＼本物の丞相を見て「どちらがどうぢや輝國殿」、「問はるゝ人も問ふ人も」と呆果てる表現、落入る太郎を「憎いながらも不便な死さま」と娘の仇敵をさへ憐み、「娘が最期も此刀、掣が最期も此刀、母が罪業消滅の白髪も同じ此刀」とはかない思ひの一句／＼を極めて鮮明に語盡されました。

傑作の覺壽とともに、人間道眞の刈屋姫に對する情味「子鳥が鳴けば親鳥も」の苦衷など無論結構であつたが、唯問題 は木像の奇蹟です。



道明寺 雜感

中野孝一

「菅原傳授手習鑑」に由縁のある吉田神社の傍に隱棲されてゐる、大西さんの嚴父のお宅で早目の夕飯を頂いて、大西さんと吉永さんと三人連れで始まるすこし前に會場へ着く。

此點に關して私は一度ゆつくり同氏に訊ねて見やうと思ひながら其機を得ませんが、つまり木像と眞物との差違をどういふ心持で語りわけけるべきやといふ問題です。私は刈屋姫に對する場合以外、いつも神秘的で神々しい或ものが基調とされるべきではないだらうかと思ひます。無論此れは單なる愚見に過ぎませんが、今回は此神秘的な分子がまだ十分ではなかつたやうに思はれてなりませんでした。

最後に一言したいのは此終曲で、名物の「いけいけいけ」など、丸本で僅數行程であるが、聽いてゐると少々長過ぎるやうに感じられます。盛澤山の事件で大分耳が勞れた爲かも知れません。それを引締め引きたて「見返り玉ふ御願ばせ」の悲壯な姿を目前に髣髴させ得たのは、何といふても清六氏の絃が大いに貢獻したからである事を附記したいと思ひます。

門を入らうとすると青葉に掩はれた京大學生集會所の古風な建物の中から、右往左往する學生のざわめきを縫ふて、思ひがけなく太棹の音が浮き立つやうにきこへてきた。文樂座の